

## 「超高速ネットワークを利用したアジア遠隔医療プロジェクト」TEMDEC (Telemedicine Development Center of Asia)活動報告：第8巻

清水, 周次  
九州大学病院

中島, 直樹  
九州大学病院

<https://doi.org/10.15017/24622>

---

出版情報：「超高速ネットワークを利用したアジア遠隔医療プロジェクト」 TEMDEC活動報告. 8, 2012-03. TEMDEC事務局  
バージョン：  
権利関係：

## 1. はじめに

発展を続けるこれまでの遠隔医療活動の中で、その応用分野も大きく広がった。消化器外科の分野から始まった新しい遠隔医療システムの利用はすぐに内視鏡分野へと展開され、これまで呼吸器外科、移植、肝胆膵、ロボット、泌尿器科、脳外科、整形外科、眼科、医療情報、ヘルスケア、また心臓カテーテル、胎児医療から看護師や学生教育まで様々な分野で活用されるに至っている。このような多岐に渡る状況を考慮し、今年度は活動のグループを整理して、**Special Interest Group (SIG)** を組織することとなった。毎年 1 回開催されている大きな学会やワークショップから、定期的に行われている少人数でのカジュアルな勉強会のようなスタイルまで、**30 の SIG** が登録された。今後その体制を少しずつ整備し、さらに魅力的で継続的な活動母体を形成したい。

今年度目立った分野での活動としては、内視鏡ナースによる国際テレカンファレンスや学生同士による遠隔症例検討会、また **APAN** タイで行われた心臓カテーテルの多地点ライブデモンストレーションも学術ネットワークを使ったものとしては数少ないイベントの一つとして、注目に値する。さらに **14** の国立大学を接続して行われた国際医療連携会議やマレーシアの **3** 病院接続テレカンファレンスも今後の継続的利用が期待される。さらに台湾でも国内 **3** か所の病院を **DVTS** で同時に接続したテレカンファレンスが実施され、今後台湾内での活動の発展が大いに楽しみである。

一方これまではシステムの改善や映像配信環境の整備に重点が置かれてきたが、この間の情報通信技術の進歩により映像配信技術は格段に向上し、医療が要求する画質のレベルに達することが以前に比べ比較的容易になってきており、そのオプションも増えつつある。実用的なハイビジョン配信システム (**HD-SCR**) の構築、また新しい **H264** 技術を搭載した **Vidyo** システムの実証など、これまで利用してきた **DVTS** や **H323** システムに代わり得る新技術として期待されている。

新規接続施設としては、南アフリカのケープタウン大学へ訪問 **6** か月後の **9** 月に **DVTS** を用いたライブ手術配信を成功させたことは本年度の最も大きな出来事の一つである。またインドで **8** 月に **APAN** が開催されたこともあり、ニューデリーの **ILBS** (肝胆道科学センター) へも新しく接続された。内視鏡の分野からはバルセロナの **WIDER** (世界消化器内視鏡センター) も新しく参加し、また国内でも東京大学、大阪大学、東北大学などの主要大学が新たに加わり、今後の活動が期待される。

今年度はまた若手研究者招聘事業の採択もあり、**18** か国から **48** 名もの医師や技術者を招聘し、人的ネットワークが大きく広がった年でもあった。特にベトナムから **Minh** さんの **1** 年間の滞在もあり、ベトナムからは合計 **11** 名の研究者を招聘出来た。また九大病院で開催された第 **5** 回アジア遠隔医療シンポジウムには **17** か国から合計 **127** 名の参加があり、大変成功裏に終わることが出来た。

今年度は日本学術振興会科学研究費基盤研究 (A) にも採択され、今後 **5** 年間にアジアのみならず世界への発展が期待されている。来年度は活動 **10** 周年を迎えることもあり、次の **10** 年へ向けたさらなる飛躍の年にしたい。

平成 24 年 3 月

九州大学病院 アジア遠隔医療開発センター

清水周次